

栃木県の牛伝染性リンパ腫ウイルス高度感染酪農場 における清浄化事例

米山州二^{1)†} 齊藤かおり¹⁾ 小笠原 悠¹⁾ 陸 拾七²⁾ 間 陽子^{2),3)}

1) 栃木県県央家畜保健衛生所 (〒321-0905 宇都宮市平出工業団地 6-8)

2) 国研理化学研究所 (〒351-0198 和光市広沢 2-1)

3) 東京大学大学院農学生命科学研究科 (〒113-8657 文京区弥生 1-1-1)



本文はこちら

(2022年1月26日受付・2022年5月11日受理・2022年6月15日公開)

要 約

牛伝染性リンパ腫ウイルス (BLV) の高度感染酪農場で清浄化を達成した。まず、感染牛の血中プロウイルス量 (PVL) 及び *BoLA-DRB3* アリルから各感染個体の BLV の伝播源としてのリスクを推定し、感染高リスク牛を優先的に淘汰した。また、子宮内感染を避けるため、原則、後継牛は非感染牛に雌の性選別精液を人工授精して得た。続いて農場内放牧を中止し、牛舎内の感染牛の飼養区域を完全分離し、境界に抵抗性アリルを有する感染牛を配置した。感染母牛から生まれた子牛 11 頭中、5 頭が感染牛で、高 PVL の母牛でより高頻度だった。搾乳牛の 82.8% が感染していた 2015 年 10 月から対策を開始し、2020 年 5 月に清浄化を確認した。高度感染農場でも子宮内感染に注意し、高 PVL 牛の優先的淘汰と感染牛の分離飼育をあわせることで清浄化は可能である。

——キーワード：牛伝染性リンパ腫ウイルス、取組事例、牛伝染性リンパ腫、清浄化対策、高度感染農場。

----- 日獣会誌 75, e114～e121 (2022) -----